

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

一宮市長 中野正康

市町村名 (市町村コード)	一宮市 (203)	
地域名 (地域内農業集落名)	旧尾西市地域 (起、小信、二ツ屋、中島、仁井、宮新田、大平、中通、新開、簗屋、板倉、北今、東五城、西五城、富田、五色町、西阿古井、東阿古井、中阿古井、下阿古井、須賀、江端、北屋敷、靱江、吉藤上、吉藤下、山玉野、東玉野、中玉野、中村、平、塚原、本郷、北川原、外山、南外山、稲葉、西中野、江東、江西、川原、上祐久、下祐久、蓮池、西下、東浦、新町、南野府、北野府、中野府、南屋敷、前田、新田、小原、将監、高野島、高野島第一)	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年7月4日 (第2回)	

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

・当地域は、水稻栽培及び野菜栽培を中心とした農業が行われており、主に経営改善計画により経営目標を掲げている認定農業者を中心経営体に位置づけている。

・水稻については、効率的な作付や6次産業化にも取り組み、野菜については、JA愛知西白菜部会員を中心に、共同研修等で低コスト化を図っている。畜産業については、高付加価値化にも取り組んでいる。

(2) 地域における農業の将来の在り方

・水稻については、今後もより一層「おいしい米」づくりに取り組み、農地の利用集積化を念頭に、経営の効率化を進めていく。

・野菜については、JA愛知西白菜部会員を中心に位置づけられており、今後も研修の共同開催・低コスト化等の取り組みを続けていく。

・尾西水稻採種組合では、現在行われている共同圃場巡回を継続し、低コスト化及び高品質化を一層進め、安定した品質及び収量を供給したい。

・畜産業においては、高付加価値化で生産量以上の価値を高めていく。

・新規就農者の確保を行い、後継者を当地域で育成していく。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	408 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	408 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方

農業振興地域農用地区域内の農地及びその周辺の農業上の利用が行われる農地

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積、集約化の方針
・農地中間管理機構を活用して、認定農業者や新規就農者を中心に1ha以上の団地数の増加及び団地面積の拡大を進めるとともに、担い手への農地集積を進める。
(2) 農地中間管理機構の活用方針
・地域全体の農地を農地中間管理機構に貸し付け、担い手の経営意向を斟酌し、段階的に集約化を進める。
(3) 基盤整備事業への取組方針
・基盤整備は終了しており担い手への集約化を進める。
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針
・市町村やJAが共同で開催している農業塾の担い手コースにより新規就農者を育成し、栽培技術や農業用機械等の購入支援や生産する農地をあっせんし、相談から定着まで切れ目のない取り組みを展開する。
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
・JA子会社であるグリーンファームにより耕作の受託により遊休農地の発生防止を図る。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☐ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☒ ③スマート農業	☐ ④畑地化・輸出等	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☐ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携等	☐ ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

・スマート農機を導入し農作業の効率化を図り生産コストの低減を目指す。